

2024年度 ラダー別教育計画

1. 看護師 教育計画

		ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
JCHOの ミッション に基づく 統合的な 目標		・指導の下で安全な看護ができる。 ・組織の一員であることを自覚し、施設を利用する全ての人、協働する全ての仲間と丁寧な対応ができる	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる。	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に参画できる。	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズを統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる。	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる。 ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズを統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる。
	大阪病 院看護 部の 到達目 標	・指導を受けながら基本的援助が安全に実施できる。 ・チームメンバーとしての役割・責任を果たす。 ・社会人・専門職業人であることを自覚する。	・看護過程を踏まえ、個別的ケアが実践できる。 ・所属部署における専門的知識をもって、問題解決できる。 ・日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。	・対象を全体的に把握し、見通しを立てることができる。 ・自ら状況を判断し、対象に適した看護が実践できる。 ・部署におけるリーダーシップの発揮ができる。 ・他者に教育的・指導的に関われる。	・理論的知識と実践的知識を統合した看護実践ができ部署における役割モデルとなることができる。 ・看護単位の課題を明確にし問題解決のために主体的に行動できる。 ・キャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組むことができる。 ・看護の質の向上に向けて専門を追求した研究に取り組める。	・看護単位の患者を把握し、ケアの必要度を把握することができる。 ・看護単位における課題を明確にし、目標を示しながら、具体的解決を図れる。 ・看護単位における教育的役割がとれる。 ・看護単位における看護実践に関して調整的役割をとり、管理者を補佐するとともに、メンバーに対して指導や支援ができる。
倫理的 実践能 力	看護倫理	看護倫理Ⅰ				
		看護倫理Step1				
		看護倫理Step2				
		看護倫理Step3				
看護を 臨地 で実 践す る能 力	臨床看護 技術	臨床看護技術演習Ⅰ-1 ～日常生活援助編～	第一ラウンド、検温、清潔、寝衣交換、排泄介助・陰部洗浄、移乗・移送、食事の準備と片付け、口腔ケア、ポジショニング			
		臨床看護技術演習Ⅰ-2 ～診療の補助編～	採血・翼状針・留置針挿入、輸液管理			
		コミュニケーション	コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅡ (リーダーシップ研修Ⅱ-2に含む)	コミュニケーションⅢ (リーダーシップ研修Ⅲに含む)	
	看護過程	看護記録 看護過程Ⅰ	看護過程Ⅱ			
	臨床判断	フィジカルアセスメントⅠ-1	フィジカルアセスメントⅡ	臨床推論		
		フィジカルアセスメントⅠ-2 ～周手術期編～				
	救急看護	救急看護Ⅰ	救急看護Ⅱ	各部署の特殊性を考えてACLSを企画・実施する		
	高齢者認知症看護	高齢者認知症看護Ⅰ	高齢者認知症看護Ⅱ Step1 高齢者認知症看護Ⅱ Step2	高齢者看護Ⅲ		
	入退院支援	入退院支援Ⅰ	入退院支援Ⅱ	入退院支援Ⅲ	入退院支援Ⅳ	
	がん看護	がん看護Ⅰ	がん看護Ⅱ	がん看護Ⅲ		
	スキンケア	スキンケアⅠ	スキンケアⅡ	スキンケアⅢ		
	摂食嚥下障害看護	摂食嚥下障害看護Ⅰ	摂食嚥下障害看護Ⅱ Step1 摂食嚥下障害看護Ⅱ Step2	摂食嚥下障害看護Ⅲ		
	組織的 役割 遂行 能力	安全	KYT Team STEPPSⅠ			
感染		感染Ⅰ	感染Ⅱ	感染Ⅲ		
リーダーシップ			リーダーシップⅡ-1 リーダーシップⅡ-2	リーダーシップⅢ		
災害		災害Ⅰ	各部署の特殊性を考えて防災訓練を企画・実施する			
労働安全衛生		メンタルヘルスⅠ				
	ピアサポート		2年目研修			
教育・ 研究	看護研究	e-ラーニング視聴にて学ぶ 看護研究発表会				
	リフレクション	リフレクション（自己） リフレクションⅠ	リフレクション（他者）			
	教育		プリセプターシップ研修 プリセプターフォローアップ研修	新人看護職員 実地指導者研修 Part1・2 実習指導者研修Part1・2	看護職員教育担当者研修 Part1・2	
その他	キャリア支援	目標管理Ⅰ	目標管理Ⅱ	目標管理Ⅲ	目標管理Ⅳ	目標管理Ⅴ
		社会人基礎力Ⅰ	社会人基礎力Ⅱ	社会人基礎力Ⅲ		
	院内留学（院内部署・スベシヤリスト）					
	看護補助者研修					
重症度・医療、看護必要度研修						

※ 看護部長・副院長講演会

2. 看護補助者 教育計画

		ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
	到達目標	病院で働くことを自覚して、指導・支援を受けながら安全に看護補助業務を実施できる。	看護補助者の役割を知り、指導・支援を受けながら安全に看護補助業務を実施できる。	看護チームの一員であることがわかり、安全に看護補助者業務が実施できる。	看護補助者業務においてフォローアップが発揮できる。	看護補助者業務においてリーダーシップが発揮できる。
組織的役割遂行能力	組織における役割・心構えの理解と適切な行動	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 (①医療制度について②JCHOについて③大阪病院の理念と今年度の看護部の目標)				
		接遇				
	コミュニケーション	コミュニケーションⅠ・Ⅱ		コミュニケーションⅢ		
		倫理				
業務実践能力	看護補助者としての自覚と責任ある行動	医療安全（報・連・相、KYT）				
		感染（標準予防策に関する知識と技術）				
	看護補助者に求められる守秘義務・個人情報	情報管理				
	周辺業務	シーツ交換（OJT）				
	直接ケア			移乗・移送Ⅱ・Ⅲ		移乗・移送Ⅳ
				体位交換・寝衣交換・おむつ交換 ナイトアシスタントも含む		
				摂食嚥下（食事介助） ナイトアシスタントも含む		
	認知症ケア（見守り）ナイトアシスタントも含む					
自己教育力					フォローアップ	